

会 議 録

会 議 名	平成29年度第1回 三芳町まち ひと しごと創生総合戦略審議会
開 催 日 時	平成29年8月18日(金) 13時30分開会 16時00分閉会
開 催 場 所	三芳町役場 2階 201会議室
主宰者氏名	政策推進室
出席者	会 長 吉田 博 職務代理 佐藤 誠一郎 委 員 久保 務 委 員 細谷 光弘 委 員 笠原 高治 委 員 田村 伸一 委 員 齊藤 富美江 委 員 五味 清文 委 員 上田 剛 代理 土屋
欠席者	委 員 遠藤日出夫
事務局職員	政策推進室 室長 百富由美香 副室長 島田高志 主幹 富田篤 主事 齋藤未来
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p style="padding-left: 20px;">① 地方創生加速化交付金事業報告</p> <p style="padding-left: 20px;">② 三芳町まち・ひと・しごと総合戦略進捗状況報告（KPI進捗状況）</p> <p style="padding-left: 20px;">③ その他</p> <p>4 閉 会</p>
会議結果	<p>次回以降、KPI進捗状況については、数字の根拠や事業の過程等まで内容を詳しく示す。</p>
配布資料	添付のとおり

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
	<p><b>開 会</b></p> <p><b>会長あいさつ</b></p> <p><b>議 事</b></p> <p>① 地方創生加速化交付金事業報告</p> <p>配布資料に基づき事務局より説明（富田）</p> <p>会長 それでは、審議会で意見を求められている事項について順に皆様よりご意見ご質問を承りたいと思います。まず、簡単に一言ずつ全員にご感想を述べていただき、事務局の方にまとめていただきたいと思います。その後に具体的な質疑に入りたいと思います。では久保委員からお願いいたします。</p> <p>久保委員 色々と調べながら発展的にやっていっているという印象を受けた。</p> <p>細谷委員 6次産業課の方で、実際に開発して成果として売るとはできたのか。ほっこりO I M O スパークリングはアンケートを取っていたと思ったが、報告書にSWEET MO I M O I のようなアンケート結果がついていないようだがどうだったのか。また、作成した絵本 900 部は売るとは、寄付するのか、どうするのかをお聞きしたい。O Z マガジンのツアーはいくらか。料金を取っているのであれば、いくらぐらいで人が集まって、かつ満足したのかをお聞きしたい。</p> <p>田村委員 三芳の特徴をよく把握し、何をやるべきか精査されている。また、そこから何がやりたいのかまで発展的に行っていると思うので、方向性は非常に良いと思う。</p> <p>五味委員 やるべきこと、やっていること、集計はしっかりやっているという印象。ただ、農業センターをやる中で、その農業センターがどこにあるのかわからない人もおり、平日は閑散としていて通り過ぎてしまうこともある。農業センターを核として発展するのであれば、もう少し幅広く大々的に宣伝していただきたいと思う。</p> <p>土屋委員 パッケージがとても綺麗で、これが講習会の結果ということであればとても感心する。ターゲット層は 30 代女性ということだが、都内で三芳町の野菜を使ってというのはとても魅力的だと感じる。ただ、ツアーが 2 月にまとまって</p>

	<p>いるようだが、もっと良い時期、芋ほりとかがあるとより良いものになったのではと感じた。ボランティア等人材育成事業は予算と実績の額に大きな開きがあるのはなぜなのか、詳細をお聞きしたい。</p>
笠原委員	<p>私は審議委員であるが、何をやるか、予算を決定する時にどの部分にどれだけお金がかかるのかという事前の相談は全く預かっていない。交付金を適当に振り分けた訳ではないとは思いますが、どういう基準で配布されたのかがわからない。「何をやるか」の後に、「何をやりました」の順番になるのでは。</p>
齊藤委員	<p>ほぼ外に向けてやっている事業という印象。三芳町民はどうしたのか、そこに向けては今後も何もないのか。また、富に関わっている人たちだけしか参加しておらず、藤久保や北永井など他の地域の人がどう思っているのかがほとんど入っていないように感じる。参加者にしても募集にしても全て外向けという印象を受けた。</p>
佐藤委員	<p>事業の結果を踏まえて、今年度以降、次に繋げないといけないと思うので、課題を整理しなければならないと思うが、その課題はどういったものになるのかお聞きしたい。また、目的はp3の安定した雇用を創出する、新しい人の流れを作るとのことだが、個々の事業はそれぞれうまくやっているが、それが目的にどう繋がるのかが、いまいち見えないのでそれをしっかり示していただきたい。</p>
会長	<p>全体として非常によくまとまっている。安定した雇用創出とあるが、雇用形態も売り手市場から買い手市場に変わってきている。そのような変化を今後どうお考えになっているかを踏まえながら全体的な戦略的な流れをお聞きしたい。</p>
事務局 (富田)	<p>(細谷委員の質問に対して) 開発した3つの商品については、ヒアリングがまだであるが、売り出せるレベルのものもあり、今後の展開としては製品になっていくと考えている。O I M Oスパークリングのアンケートは、川越いも振興会で行ったアンケートであり、町としては報告をもらっていない状況。今後、報告はいただきたいが、町としてどうするという事は検討していない。絵本は、各学校に無償で配付している。一般財源で別途100部作成しており有償配付をする。ツアーは、報告書p46にあるとおり、8,000円で募集をしている。ファムツアーに関しては、業界人を招待して行ったものであるため無償としている。</p>
笠原委員	<p>モニターツアーは8,000円で募集したということで良いか。</p>
事務局 (富田)	<p>その通り。企画先が募集を行った。</p>

会長	募集のバリエーションをもっと工夫されると良いと感じる。
事務局 (百富)	募集をかけてすぐ満員になるほど人気のツアーで、当日の満足度もとても高くまた来たいという方も多かった。そういった意味でも、ターゲット層に合った内容であったという結果が出ている。
笠原委員	参加人数が少ないと感じるが何か理由があるのか。
事務局 (百富)	モニターツアーとして一人ひとりの声を座談会形式でじっくり聴くことが目的であったため、少人数でのツアーとなっている。
笠原委員	今の話を聞いていると、とてもポテンシャルの高い事業だと感じる。
事務局 (百富)	今回、交付金をいただき多くの事業をやったが、その中でも、町として今後もやっていきたい事業の一つとなっている。今回、町でお金を出すのではなく自費で来ていただくという形として、8,000円というこれだけのお金を払ってでも来たいと都内の女性たちが思っていることが結果としてわかった。
事務局 (富田)	(土屋委員の質問に対して) 時期については、採択が今年の8月で昨年度中に全ての事業を完了しなければならなかった。そこから細かい内容を詰めた為、設定できたのがこの時期であった。また、各農家さんにご協力をいただいたのだが、秋は一番にぎわうシーズンであるが、その分繁忙期なので協力いただくのが難しく、設定時期をあえてずらしたという経緯もある。 ボランティア人材育成事業は、国に申請するにあたって全ての詳細まで見積もりをとった訳ではなく、概要の見込みで申請をしている。そのため、当初は講師を招いて研修をするイメージであったが、PTの中でちゃんとした業者に委託をして地域に入り込んでもらい人材を探す事業を展開しようという方向に変わったことで、金額にかなり差が出るということになった。他の事業についても差が出ている部分は、当初の見積もりが概要であったためとなる。
事務局 (百富)	(笠原委員の質問に対して) 上富の地域活性化ということで、応募させていただいているという事までは審議会に報告しているところであった。実際には、国に採択されるために国と町の目的を擦り合わせて何度も修正を加えながら申請をする必要があった。また、二次募集で採択されたこともあり、採択後は、すぐに補正予算をかけて3/31までに全事業終了ということで、急ピッチで事業を行わなければならなかったうえに、町として平等な手続きのための入札なども必要で、とにかく時間が足りなかったという経緯がある。前年度から交付金がわかっていて、審議会できっちりお話しして、1年間をかけて住民の方と共に進めることというのが理想ではあるが、事前に会議を開く時間もないというのが現状であった。ま

	<p>た、交付金の半分は人の流れを三芳に呼び込むような地方創生が国の目的であったため、町外の人に来ていただき、そして町外の人はどう伝わるのかということを中心に色々な仕掛けのソフト事業をやらせていただいた。一番のミッションは、住民や町外の人も含めて自分たちで自走して、今後、この事業が繋がっていくようなことをやるという事だったので、そこに繋がるきっかけを作ることが今回の事業であった。会議を開けなかったことは申し訳なかったが、報告という形で検証をしっかりとさせていただきたいと思う。</p> <p>(齊藤委員の質問に対して)</p> <p>広報を見ていただくとわかるように、まずは三芳町の人に三芳町を好きになってもらうということが現在力を入れているところではある。しかし、今回の事業の目的は、人の流れを作って三芳に入ってきてもらうということがメインであるため、部分的には町民の方にもPRをしているが、外向けの事業をメインとさせていただいている。</p> <p>(佐藤委員の質問に対して)</p> <p>今後の展開としては、多くの機運や6次化などの提案をさせていただいた中で、町が強制するのではなく、地域の方にどう受け取ってもらい、どうやっていってもらえるのかというところ。町が面倒を見るのではなく、地域や民間の力でやっていくというのが国からのミッションでもあるので、そのきっかけ作りはやらせていただいたと感じている。また、町として地域活性化事業をやりたいたというのがわかった事で、民間企業の方から町の方に提案してもらえるようなきっかけにも繋がっており、そういった気運醸成に繋がったというのが、現在の評価として出てきている。今後、そういった声を集めることも検証になっていくのかなと考えている。</p> <p>(五味委員の質問に対して)</p> <p>農業センターの活用の周知については、現在は地域の物産品が常時売っているというわけではないが、スタートできるものが出てくれば大きくアピールしていきたいと思っている。秋の時期だったり、マルシェを開いたり、定期的にとという形にもなるかはわからないが、町としては、民間の力を借りて何かできないかという事など、提案をいただく中で選んでいきたいと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>今、事務局より説明がありましたが、何か念を押してご意見や感想などありましたらおっしゃっていただきたいと思います。私の方からは、基本目標1と2に対して、主に外に向けたものという話がありましたが、町民に向けた部分をもう少し色々周知されても良いのではと思います。</p>
<p>笠原委員</p>	<p>アスクルの工場の方は新木場の方に行ったと聞いている。せっかく三芳町で働いていたのに、町としてはどういった対応をしたのか教えていただきたい。</p>

会長	住んでいる人にとって大事な事なので、直接的に関係するかはわかりませんが、何かあればお願いいたします。
事務局 (百富)	みなさまには大変ご心配をおかけした。町としては、対策本部を設置し地域の方への避難勧告時の対応等をさせていただいた。会社がきちんとした企業だったので、一軒一軒訪ねて対応をしたと聞いている。また、原因究明など色々あり、一時的には雇用されていた方が他のところに行かれているという事もあるが、地盤が安定している三芳に再建するという話も聞いている。固定資産税などの税金にも影響することもあるし、地域説明会でもきちんとした会社にやってほしいという要望もあるのでそういった意見を聞いて再建されるということであれば有難く思う。
笠原委員	他の会社に移った従業員を取り戻せないだろうか。そのためのしかけ作りはしていないのか。
事務局 (百富)	雇用についての町の動きというのは今のところない。町外に出てしまった可能性のある方の状況や人数までは把握していないので別の担当課などに確認しないとわからないが、昼夜間人口比率が高いように町に雇用に来てくれる方はたくさんいるので、そういった町の良さは引き続き町の方で作っていくことが必要だと感じる。
早川委員	アスクルはパートの人が多く、そういった人たちは出版産業に面接に来ていたと聞いたし、そう遠くには行っていないと思う。この会議は人口が減ったり仕事が減ったら困るというものなので、優良な企業に町でやってもらうこと、そして町がそれを確保することが大事。フルインターにもなるし、人が働く場所をもっと提供して、それに伴って人口が増えていくというのが理想。アスクルはyahooが出資しているのでつぶれることは無いと思うが、再びまたあそこでやってもらう事、雇用があることが町として大事だと思う。
会長	民間企業には民間企業の方針もあるかもしれないが、雇用があるということは重要であるし、行政としても住んでいる人への情報提供に尽力していただきたいと思います。
齊藤委員	これだけ色々と事業をやっているが、個々にやってきていて、今後は民間にという話もあったが、地元だったり、横の繋がりであったり、発展させていくうえで、どのように考えているのかを教えていただきたい。
会長	全体としての繋がりや町に住んでいる人との関係性についてご説明いただければと思います。
事務局	半年間はPTでやってきており、今後は観光産業課を中心にやっていくが、町

<p>(百富)</p>	<p>は機運醸成として投げかけはするが、核となるのは地域の方や民間企業の方となる。そういった方を巻き込んで活性化していくという流れを考えているが、このままほっといても繋がりには難しいと思っている。ただ、お金を用意したりお願いするような今までと同じ形にはならないようにやっていきたいと思っているので、色々な意見を取り入れて、先に動きを出していただいたところに町が何をできるか考えていきたい。すでに先日マルシェが開かれたのだが、町が入っていくのではなく、加速化交付金の中で関わった人たちが、ためしにやってみてみたいということでやった。会社等だと結果や失敗を考えてしまうところだが、そういったものがなく大成功という形になった。町が介入していたら一定の形通りのものになってしまうので、町はお手伝いできることや関われることを考えてやった。それ以外にもきっかけ作りはたくさんやったので、その結果や反応はこの一年で出てくるかと思うので、次のステップを整理して考えていきたい。住民の方への説明会は2回開催しているが、地元の人が十数名参加しただけであった結果からも、これから新しいことをやる時には、どうゆう形が一番知ってもらえるか、もっとPRの方法を考えながらやっていきたいと思っている。</p>
<p>土屋委員</p>	<p>役場から住民にどう伝えるのかというのは難しいと思う。7,400万円を使った事業を活かしていく上で、ここで終わってしまったら自走すると言っても、このままでは地元の人には自走できない。地元の人々のネットワークの中で、こういった情報がどれほど広まっているのかというのを拾っていかないといけないと感じる。地元である齊藤委員はどう感じたか。</p>
<p>齊藤委員</p>	<p>ツアーとかHPを見ているが、それが民間活用なのか三芳町の事業なのかかわりにくかった。マルシェも自分たちでやっていると言っても、同日に枝豆狩りを別でやっていたのだから、そこで役場が入れば繋がりが持てるしもっとお互いさまという形になったのではと感じた。また、農業センターは改修されたが、トイレは汚いままだという声があった。そういった声を拾えるよう、横の繋がりをもっと広げていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ぜひとも検討していただきたいと思います。横の繋がりがあると両方が盛り上がるし、無駄も省けると思います。スロープを作るなど配慮もできているようですが、中だけじゃなくて外のトイレなど地元の人にはよく知っているの、より如何にして情報を集めるかを考えていって欲しいと思います。</p> <p>②三芳町まち・ひと・しごと総合戦略進捗状況報告（KPI進捗状況）</p> <p>配布資料に基づき事務局より説明（富田）</p>

会長	<p>それでは、説明のあった事項について順に皆様よりなんでも結構ですのでご意見ご質問を承り、最後に事務局の方にまとめていただきたいと思います。では久保委員からお願いいたします。</p>
久保委員	<p>地方創生加速化交付金とまち・ひと・しごと創生総合戦略は同じものなのか。</p>
事務局 (島田)	<p>地方創生の中の補助金の名前が加速化交付金である。</p>
久保委員	<p>農業センターをいじるというのが最初からあって、それに伴って7,000万円を使ったという中で、今の説明の中では反映してくる部分が見えない。どうすれば町が、人が、仕事、という部分で、なぜ農業センターに行きつたのかわからない。町というよりも上富地区に限定されている事業内容だという印象。次は藤久保地区の活性化の事業に助成金はもらえるのか。また、具体的な案はあるのか。確かに、自然も大事だが人が働く場にこういったものを費やしていけるのかが見えないと感じた。</p>
細谷委員	<p>保育所待機児童数がH26からH28末までに減っているのに、認可保育所への受入児童数もH26とH28末を見ると減っているのは、ここは連動していないということになるのか。放課後児童クラブの定員確保数が変わっていないのだが、これは放課後児童クラブに行く児童が331人に達していないから変わらないのか。だとすると、資料3によると14歳以下の人口は減っているとのことであるし、H31の目標値411というのはいかがなものか。</p>
田村委員	<p>入ってくる人口と出ていく人口を比較すると、若年が出ていって、三芳に入ってくるのは戻ってきて家を購入するというパターンが多いということで、そこを改善するために若年層の就業率の目標設定がされているのだと思うが、H26は57.2%でH31目標値が58.0%というのは、設定としてかなり小さいと思う。また、実際に数字は下がっていることについて、どうお考えか。</p>
五味委員	<p>人口の推移を見ると人口は都市部に集まっている。確かに若年層は減っている中では、ある程度一定数の維持はしているとは思いますが、昼間は多いというも確かだが、総人口をどう維持していくかというところで戦略を考えて欲しい。</p>
土屋委員	<p>H31目標値に達成しそうな項目に対する対策を教えてください。また、人口推移の14歳から65歳の人口推移が減っている理由を教えてください。</p>
笠原委員	<p>交付金は国からだけでなく県からもあると思うのだが、県との関係はどのようなものなのか。また、KPIのこの指標の結果は、例えば、ふるさと納税返礼</p>



	<p>商品数の 14 点から 121 点になった理由など、それぞれの項目の理由をお聞きしたい。</p>
齊藤委員	<p>役場女性管理職登用の割合については、H31 目標値が 30%以上となっているが、いろいろな課がある中で、それぞれの課にそれぞれいるのか、一つの課にまとまっているのか教えていただきたい。分散されている方が色々な話が通じると思う。また、ふるさと納税は、考え方をどうするかという話が世間の中で色々なところから出てきているが、町としてはどうお考えか。</p>
佐藤委員	<p>例えば、今年度はどういう施策をとってどういう目標でこうなったのか、というところがわからない。数字だけ達成すれば良いのか、帳尻だけ合わせたのではないかと、言われぬように数字だけ示すのではなく、具体的な施策、目標、課題と過程を示して今年はどうなったという事を示していただきたい。そういう意味でも数字の達成が必ずしも目標ではなく、最終的には戦略にある基本目標が目標になってくるのかなと思う。そういう意識で考えた方が良いのではと率直に感じる。</p>
会長	<p>数値的な目標と同時に住んでいる人の満足度といった気持的な問題も重要ではないかと感じます。私の方から、学校図書館貯蔵達成率というのは本の数だけなのか、内訳を教えていただきたい。それでは、事務局の方からお願いします。</p>
事務局 (富田)	<p>(久保委員の質問に対して)</p> <p>指標となっている事業としては、観光入込客数が該当してくる。今回は上富地区がメインとなっているが、今後、他の地域でも活性化に繋がる事業が展開できればと考えているが、まだ具体的には出てきているというわけではない。他の関係部署と連携しながらやっていければと考えている。</p>
事務局 (百富)	<p>(細谷議員の質問に対して)</p> <p>子どもの数は減っているが、働く女性の数が増えているため、学童や保育所のニーズはある。地域によって学童に入っている人数にはばらつきがあり、藤久保など駅に近いエリアは高く、上富方面はまだそこまで高くないが、今後高くなるだろうということを想定している。そういった中で、受け入れ人数を確保していかなければならない。数字の出し方としては、入れられる数なのか入っている数なのか確認が必要だが、定員数はほぼ満員だと聞いているし、多くしていく必要があるということが、確保数の数字となっている。待機児童数は民間の保育所がいくつか立ったり、第三保育所を改修し枠を広げたことで待機児童が減少した。年少人口は三芳に限らず全国で減り、都内に人口が集中していく中で、この人口を維持したい、若い世代を増やしていきたいという取り組みを入れているところであるが、今現在の状況としては、減るという事がわかっている中であるべく維持していくというところでの数字となっている。</p>

	<p>(佐藤委員の質問に対して)</p> <p>総合戦略の中にKPIの目標値と、どういった事業を展開していくかが載っているが、今は途中にいるため、数値はこうなっているという報告のみとなっている。全てが着手できているというわけではないが、大きな目標としてH31までにこの数値を目指していくというものになっている。次回はこういった事業を行ってこの数値になったということをお示しできるよう資料を用意する。今回は、担当課があることなので、一つ一つ説明するのは難しい。</p>
	<p>(笠原委員の質問に対して)</p> <p>担当課であるふるさと納税については、当初、H27には年間450万円くらいの寄付があり、昨年は力を入れて1軒1軒事業所を回るなどして品数を増やしていき昨年は1億3400万円ほどの寄付をいただいた。</p> <p>どんなものがあるのか。</p>
笠原委員	<p>サツマイモや野菜の他に、町には製造業が多いので、工業製品などがある。バリエーションを増やすことで様々なニーズに対応するという戦略でやらせていただいた。その結果、寄付額を大きく伸ばすことが出来た。</p>
事務局 (百富)	<p>(齊藤委員の質問に対して)</p> <p>ふるさと納税の方向性については、過剰な状況について総務省からも指摘があり、三芳町にもいくつか課題となるものがあつたため、そういった商品は取り下げを行った。しかし、ふるさと納税により大赤字になっても交付税をもらっている自治体は75%補填されるが、三芳町は補填されない。そのため、三芳町は流出分を寄付していただくため力を入れて頑張ってきてきたところである。この制度を国が終わりにしてくれればありがたいが、この制度が残る以上は、できる限りの努力をしたいというのが、町のスタンスである。</p>
笠原委員	<p>町として町民に対して町に納税していただくような取組はしているのかお聞きしたい。</p>
事務局 (百富)	<p>三芳町の方が三芳町に寄附した場合でも返礼品をお渡ししているが、総務省から強い指導もあるので辞めざるを得ない状況である。また、ふるさと納税のPRは外向けにはしているが、町民に対しては大きくはしていない。</p>
会長	<p>総務省との関係もあるので事務局の方も大変だと思うが、やはり住民の方がここに住んでいて納税してよかったという満足感、金銭ではなくて、何か与えられるものの情報発信をもう少し考えていただければと思います。</p>
事務局 (島田)	<p>私の方から、数値についてわかる部分についてお答えすると、若年者の就業率については、H22は人口7876人中、就業者が4505人、H27は人口6812</p>

	<p>人中、就業者が 3662 人、どの年代が減っているかというところと 30 歳から 34 歳の就業率が減っている。役場の管理職の登用については、偏っているように見えない。</p>
笠原委員	<p>ここでの役場の範囲というのはどこまでなのか。</p>
事務局 (島田)	<p>図書館等も含めて全てである。</p>
齊藤委員	<p>例えば保育所は女性が多いと感じるがどうか。</p>
事務局 (百富)	<p>まず、保育所にはそこまで管理職を置いていない。分野としては、福祉系は女性が基本的に多いというのがあるが、そういった事も町の姿勢として打開していきこうという動きも出てきている。ただ、そうはいても土木職には女性が見えないように、まだまだこれからというところもあるが、以前よりも少しずつ変わってきている部分もある。</p>
事務局 (島田)	<p>次に、町内の事業者数は、職種としては福祉医療と卸売業が増えている。ファミサポの年間活動件数については、会員数は増えているが、連続が減って単発が増えたこと減った原因であると担当課から聞いている。学校図書館蔵書達成率は、学校図書には目標数があって、その達成率であると思われる。目標は、みなさまのおっしゃるとおり達成すれば良いというものではないと思うので、どうしてこうなったのかというところが必要になると思うので、そこを示していきたいと思う。</p>
会長	<p>達成するのに努力が必要なもの、達成困難なものがあれば教えていただきたい。</p>
事務局 (島田)	<p>やはり人口に関わるものは、大変だと感じる。年少人口などは、どこも落ち込んできているところである。</p>
会長	<p>女性の就業率については、確実に見込めるものと理解してよろしいか。</p>
事務局 (島田)	<p>目標に向かってやっていきたいと思う。</p>
	<p>③ その他</p>
会長	<p>協議事項その他について委員のみなさん、事務局の方で何かありますでしょうか。</p>

事務局 (富田)	特にありません。
笠原委員	この審議会は招集令状が突然来るので、次回のある程度の開催日程は教えていただきたい。
細谷委員	三芳に住んでいて税金の使われ方がわからない。北永井に住んでいて、この何十年何も変わっていないのではと思った時に、納税しても意味がないと思わないように町としてちゃんとして欲しいと思うし、この加速化交付金のように県からでも国からでも交付金はどんどん貰って使えるお金を増やして、住民のために使わないと閉塞感しかなくなってしまう。川越より北の方はこれ以上人口を増やすのは難しいと言われる中で、三芳は東京に近いし、まだ可能性はあると思う。その中で、こういう事業が、人が集まる空間やしきみづくりに使われないと本来の補助金の意味がないのかなと思う。大幅に人口を増やすくらいの意気込みで行かないといけないのではと個人的に思う。
笠原委員	住宅会社の友人から三芳町で大型分譲をやったらどうかという話がでてくるが、土地が無くできない。住宅が建てば人口は自動的に増えるし税金も増える。そういったしきみを作っていくかといけないと思う。
齊藤委員	藤久保公民館と小学校の開発の話について、1、2回住民説明会があつてそれ以降どうなっているかわからないが、そこを開発するにしても地域活性化ということであれば、みんなが本当に使いやすいものにするためには、今回のような報告ではなくてもう少しいろんな意見を聞きながらやっていただきたい。
土屋委員	今年度、大きな交付金などの申請はあるのか、あれば内容を教えていただきたい。
事務局 (百富)	国がいま出している地方創生推進交付金は、町に1/2の負担を求めている。また、新規性のある新たな活性化に繋がるものを求めているのだが、今年度については、1/2負担をして大きく新たなものというのは、国との考えに沿うものの予算もつけていないし、いくつかの提案はしてみたがとれなかったのでH29については使う予定はない。ただ、来年度以降には検討して交付金を活用していきたいというはあるので、それが出てくればこちらの会議でお話ししたいと思う。藤久保拠点も動きはもう少し先になるので、今の時点で大きな活性化の事業が出てこない、三芳町がやっている小さな事業は該当が難しいというのが現状となっている。
土屋委員	地方創生加速化交付金はこれで終わりということによろしいか。今後も何かあるのか。

事務局 (富田)	交付金を使って何かをやるということはないが、この事業の継続として各担当課が学んだことからそれぞれ進めていってという形になる。
会長	経験や知見を活かして如何に民間を巻き込んでやっていくかということが重要だと思う。
事務局 (富田)	例えば、ツアーは昨年度委託という形でやったが、今年度は、観光産業課の職員が打合せをしながらそば打ちのツアーを行ったというように繋がってきているものもある。
五味委員	7,500万円を使って良い事業をやったので、ぜひ継続して、役場、民間、法人会や商工会の横の繋がりで連携を取りながらいくつかの事業を発展していった地域の活性化に役立てていって欲しいと思う。
田村委員	目標値の話になったが、我々一般企業の設定とは違ってくるのかなと感じた。一般企業は非常に厳しく、なぜその数字なのか、その数字を達成することによってどのような効果があるのか、具体的な検証はどうなのかもシュミレーションして設定する。今回は時間もなかったというのもあると思うが、次回の展望として、具体的な数字的な効果、これをやったことによってどれくらい数字が改善されたかについて、深く聞いてみたいと思う。
会長	次回からはこの数字の説明もお願いしたい。
久保委員	今回、助成金を受けられて、最初に言っていたように三芳町の人口は減っていく、仕事を増やしていかなければならないという中で、どのように活かしていくか、また、上富だけでなく各地区に反映できるものができればと思う。
佐藤委員	自治体や役所の役割は民間と住民が動きやすくなるような情報提供や町のビジョンを発信することだと思う。それによって民間が投個人投資したり住民の方が連携にしてやろうというムーブメントが起こってくると思う。今、話を聞いている限りでは、情報提供に少し不安というか、もう少ししても良いのかなと感じる。将来的には町にはこういう計画があるといったことが情報提供されると民間や住民は動きやすいので、やっていただきたい。
	それでは、本日の会議は終了いたします。これにて、議長の「つとめ」を降ろさせていただきます。議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。
	閉 会